

津付ダムだより

つづき

1号トンネルが貫通しました

津付ダムだより第17号(9月)で紹介した付替国道1号トンネルの工事が順調に進み、11月11日に無事貫通しました。関係者が見守る中、油圧ブレイカーでわずかに残った壁を掘削すると小さな穴から光が差し込み、貫通に至りました。貫通時には小さな穴でしたが、6日後には下の写真のように自動車も通れるほどの大き

貫通の瞬間の様子



貫通から6日後の外側の様子

さとなり、トンネルの形になりました。

トンネル工事の進捗状況

貫通後も工事は続いています。

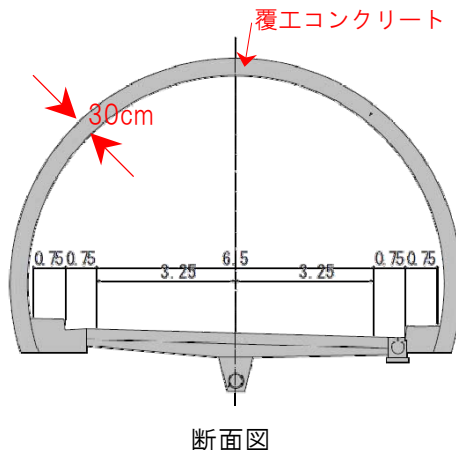
現在は、覆工という、トンネルの内側をコンクリートの壁で覆う作業の準備を行っています。左の写真はトンネル周辺の地下水が漏水しないように防水シートを張り終えた様子です。この後、型枠を設置してコンクリートを打設します。



防水シートを張り終えた様子

質問コーナー

(質問) 1号トンネルの壁のコンクリートの厚さはいくらですか？ (回答) 出入口付近は35cm、その他の部分は30cmです。



断面図

付替国道工事の進捗情報などをホームページでお知らせしております。下記ホームページも御覧ください。

津付ダム付替国道(津付道路)

<http://www.pref.iwate.jp/~hp4580/tuduki-road/>

気仙川水系河川整備手法比較表の説明

津付ダム日より平成21年12月号(第11号)に掲載した「気仙川水系河川整備手法比較表」の補足説明を行っています。この表は、平成21年度に行われた大規模事業評価専門委員会での審議に使用されたものです。

今回は、移転戸数について、着目します。

(ダム+河川改修案→津付ダム建設と河川の改修を組み合わせで対策する案)をA案、(河川改修単独案→河川の改修のみで対策する案)をB案として比較しています。

		(ダム+河川改修案) A案		(河川改修単独案) B案	
移 転 戸 数	1/30	11戸	ダム 10戸(移転済) 河川改修 1戸	8戸	
	1/70の整備に必要な追加分	8戸	河川改修 8戸	38戸	河川改修 38戸
	合計	19戸	○	46戸	△

段階的整備の計画として、今後20年程度の期間での整備を目標とした「気仙川河川整備計画」は、治水安全度を概ね30年確率(1/30)としています。また、気仙川の河川整備の最終目標(河川整備基本方針)では治水安全度を1/70としています。

表の1段目では治水安全度1/30で整備を行う場合の移転戸数を、2段目では最終目標である治水安全度1/70で整備を行う場合の移転戸数を記載しています。

A案では、ダム下流全川にわたり水位低下の効果がある津付ダムと河川改修で治水安全度1/30の整備をします。津付ダム建設事業としての移転戸数は10戸で、すでに移転いただいております。河川改修としての移転戸数は1戸としており、合計11戸となります。(表1段目)

次に治水安全度1/70を確保するための河川改修(表2段目)の追加移転戸数は8戸で、合わせて19戸が必要と試算しました。

B案は、津付ダムを整備せずに河川改修のみで治水安全度1/30の整備をするのに8戸(表1段目)、さらに最終目標である治水安全度1/70を確保するための河川改修(表2段目)の追加分が38戸で、合わせて46戸と試算したものです。

A案とB案で移転戸数を比較し、A案が少ないので、○と判定しています。

河川等への油の流出事故にご注意願います。

冬本番となり寒さが増してきました。暖房等で灯油の使用が増えてきます。もし油漏れを発見したら、すぐに消防署・警察署・市町村・県・国の機関等に連絡をしましょう。